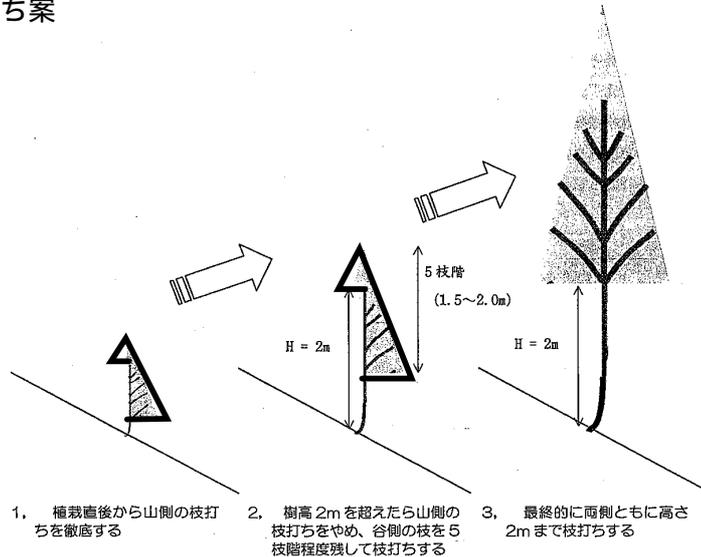


3-1-3. 法面部植栽木における裾枝打ち

- 法面部に植栽された樹木は、法面に堆積した雪のずれ落ち及び沈降圧による枝抜けを防止するため、法面の山側では枝打ちを徹底する

山側裾枝打ち案

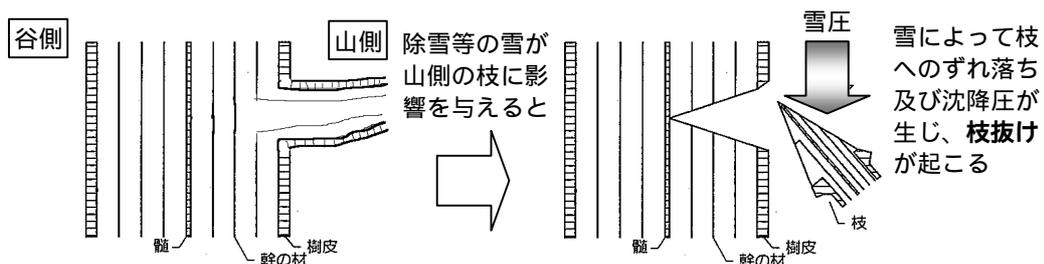


図：裾枝打ちの流れ

- 法面に堆積する雪は、自然の降雪に、道路からの除雪が加わるため、通常より多くの重い雪が法面上の植栽木に影響を与える
- 法面に生育する樹木は、山側の枝が雪により下に押さえつけられたまま道路側に引っ張られ、幹は谷側に倒れるため、枝が幹から引き抜かれる「枝抜け」を起こす
- 「枝抜け」により幹には穴が空き、病虫害の侵入経路となり、腐りやすくなる。樹木の内部が腐りはじめると物理的強度が弱くなり、将来、強風等によって倒伏する恐れがある
- 一般的に枝の年輪は密で硬く、幹の年輪は疎で柔らかいため、そうした現象が発生する



写真：山側の枝打ちをした良い事例
樹種：ケヤマハンノキ
破線丸印が枝打ち箇所



図：枝抜けの模式図